



試験期間中にシフト強要 このアルバイト辞めるべき？

近年、「ブラックバイト」が問題となっています。社会経験の少ない学生には、決して好ましい労働環境ではありません。適正なアルバイトの活用を考えていきましょう。

学業への配慮が大切

ブラックバイトといわれるものの代表例の1つが、無理な勤務を強要されることです。

学生の場合、もともと勤務時間が短いため、少くとも所定労働時間を超えて勤務させても問題ないと思えるかもしれませんが。コンビニ、居酒屋など、常に人手不足の業界では、正社員も多忙な日々をおくっているため、ついつい学生アルバイトに無理な勤務を押し付けてしまうのでしょうか。

しかし、学業を優先すべき学生に、長時間働かせたり、試験期間の勉強への配慮なく働かせることなどは、企業

は慎まなければなりません。

無理強い結局損をする

厚生労働省がおこなった学生への調査によると、アルバイトで学業に支障が出た経験のある人は全体の約2割。そのような場合に取った行動は、「知人・友人に相談した」「家族に相談した」が最も多く（合わせて55.6%）、次いで「そのアルバイトを辞めた」（10.7%）となっています。

悪い評判は友達に伝わり、アルバイトへ応募する人が減ってしまいます。また、せっかく仕事を教えても、学業に支障が出るほど無理な勤務を押し付けては学生アルバイトが定着しません。これでは、結局、人手不足が続くことになってしまいます。

トラブル事例

居酒屋でアルバイトを始めましたが、いつも店長が「人が足りないから」といって、僕の都合も聞かず、試験期間でも勝手にシフトを入れてしまいます。いつも忙しそうなので我慢していますが、このバイト辞めた方がいいでしょうか？



企業にアドバイス

学生に勤務を無理強いすれば、結局、すぐに辞めてしまうことになり、慢性的な人手不足から抜け出せません。

たとえば居酒屋であれば「まかないご飯」、職場の仲間とのコミュニケーション、専門的な仕事の体験など、学生が魅力を感じる職場づくりこそが人手不足の解消につながるはずです。

労働ひとこと

近年、若者の労働条件をめぐるトラブルが増えています。こうしたトラブルを防ぐためには、企業側だけでなく労働者側も労働法に関する正しい知識を持つことが大切だと考えられています。

そこで厚生労働省は2月より、アルバイトで働く学生や就職を控えた大学生などに向けて、パソコンやスマートフォンで労働法の基礎を学べ

る『eラーニングでチェック！今日から使える労働法』の配信を開始しました。

スマホで労働法を学べる 若者向け eラーニング

eラーニングは40の事例についてマンガと解説を読み、チェックテストで確認する形となっています。事例には「販売ノルマが達成できな

いときは自分で買い取らなければいけないの？」「職場の都合で増やされたアルバイトのシフトは断れないの？」など実際にありがちなトラブルが網羅されています。

このeラーニングは名前とメールアドレスを登録するだけで誰でも簡単に利用できるものです。

若者は自分を守るために労働法を学んでいます。企業側もそれを前提に法令を守って働かせるよう注意しなければなりません。